

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	lino (リノ) おひさまのたまご		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた専門性の高い個別支援	保護者アンケートにおいて「特性に応じた専門性のある支援が受けられている」との評価を高くいただいています。職員がこどもの特性を深く理解し、個別対応を基本とした丁寧な関わりを意識しています。	現在提供している質の高い支援をさらに明確化するため、事業所が公表している支援プログラムと実際の活動内容の整合性を再確認し、保護者へより分かりやすく提示できるよう検討します。
2	安全管理と非常時対応の徹底	非常災害対策マニュアルの整備や定期的な避難訓練の実施、また感染症対策や食物アレルギーへの対応を組織として徹底しています。保護者からも、緊急時の対応体制について高い安心感を得られています。	マニュアルの形骸化を防ぐため、最新のガイドラインに基づいた更新を定期的に行い、様々なシチュエーションを想定した実地訓練を継続して強化します。
3	共感的で迅速なコミュニケーション	日頃からこどもの状況を保護者と密に伝え合い、健康や発達状況について共通理解を持つよう努めています。相談や申し入れに対しても、迅速かつ誠実に対応する体制を整えています。	日々の活動の様子をより具体的にイメージしていただけるよう、連絡帳や面談に加えて、活動風景の共有方法を工夫し、さらなる安心感の向上を図ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	面談や見学会の提供不足	母子分離を基本としていることや、日々の業務の中で事業所側からの積極的なスケジュール提示が不足していたため、保護者が「自分からお願いしないと機会がない」と感じさせてしまっている現状があります。	随時受付としている相談・面談について、保護者がより気軽に足を運び、相談しやすい仕組みを検討・構築します。
2	保護者間の交流およびきょうだい支援の不足	日々の個別支援に注力する一方で、保護者同士が悩みを共有する場や、きょうだい児を含めた家族全体の支援イベントを開催する機会が十分に確保できていませんでした。	保護者会や茶話会などの交流機会を年度計画に盛り込めるか検討します。また、きょうだいの参加できる季節行事などのイベントを検討し、家族全体を支える支援の輪を広げていきます。
3	地域・関係機関との連携の希薄さ	保育園や幼稚園、小学校などの関係機関との情報共有や、地域活動への参加が十分とは言えません。事業所内での支援に閉じず、地域社会との接点を増やす必要があります。	こどもの移行支援(就学等)を見据え、関係機関とのケース会議への積極的な参加や、地域の行事への参画を推進します。地域社会の一員として、開かれた事業所運営を目指します。